

第16期 第9回常任理事会議事録

日時 昭和46年5月10日 15.00~18.00

場所 気象庁視測部会議室

出席者 山本, 大田, 関口, 駒林, 北川, 川村, 神山
岸保, 各常任理事

列席者 中村庶務委員

報告 抜萃

〔庶務〕

1. 4月19日 東大海洋研究所, 防災科学技術センター, 気象研究所, 東北大学, 鹿児島大学の有志代表竹田厚氏から本学会の秋季大会の会期は日本海洋学会の会期と重なるとして, 会期変更の要望がきた。

(議題とする)

2. 4月26日 本年度学会賞受賞者, 光田寧会員から, 総会の日は外国出張中のため, 記念講演は他の機会にしたいと連絡があった。

3. 4月27日 地球物理学連合から, 本年度の当番学会は, 日本火山学会で, 当番幹事は下鶴大輔(東大地震研究所)と通知がきた。

4. 5月6日 (社) 発明協会会長から, 本年度地方発明表彰候補者の推薦依頼がきた。メ切6月15日。

5. 5月7日 日本ユネスコ国内委員会事務総長から, 昨年11月12日に来たユネスコ職員候補者の募集を更に周知してほしいと依頼がきた。

6. 5月10日 (財) 偕成会理事長から, 本年度の偕成学術奨励金の申請課題募集がきた。メ切6月30日

〔ノート〕 No.107は6月中旬に, No.108は6月下旬に発行の予定。次号から表紙の紙質を厚くし明るい色に変える。また広告は, 表紙に載せないで本紙内にする。

〔長期計画〕 4月27日これからの進め方を検討した。各サブグループごとにまとめ, 来年5月末までに全体をまとめる。

まとまっている対流関係, 気象衛星, その他について5月27日夜インフォーマルミイテングを行なう。

〔正野記念論文集〕 5月末までに原稿を整理し, 6月中に編集委員会を開き9月頃発刊する。

気象集誌の特別号にする(議題とする)

〔地物研連〕 モスコウでの国際会議出席者の最終リストをチェックしている。気象分科会の出席者は15名位になる見込。

〔GARP〕 南西諸島案と日本海案については, 本日の委員会で検討した結果, 日本と, JOC 双方の考えをとり入れた南西諸島案で実施するという結論になった。

〔学会賞〕 松永賞候補者として光田寧会員を推薦することとし資料をもとめている。

〔学術会議〕 4月21日~28日の第58回総会の提案報告
議題

1. 昭和46年度総会の準備について

(1) 大会の準備および運営の細部については, 大会委員長に一任する。

(2) シンポジウムの記録のまとめは, 従来どおり講演企画委員会担当とする。

(3) 大会の年次当番の東大の中に, 埼玉大, 東京理科大を含めることについては, 検討する。

(4) 来年度秋季大会の仙台開催を東京管区管内に一時振替えることについては, 次の理事会に提案する。

(5) 昭和46年度予算書(案)を承認する。

2. 正野記念論文集

正野記念号(仮称)として発行することを承認する。

(本件は次回の理事会に提案する) その場合には, 編集委員に小平集誌編集委員長を入れる。

3. 担当理事, 委員の変更について

関口常任理事の講演企画担当を解く

天気 新任 巽 保夫

〃 丸山 栄三 退任 杉本 豊

集誌 〃 小野 晃 〃 内田 英治

講演企画 〃 河村 武

ノート 〃 山岸米次郎, 新田 勲

国際交流 〃 斎藤 実 退任 瀬下 慶長

正野記念論文集 委員長 山本 義一

委員 窪田 正八 岸保勘三郎 曲田 光夫

関口 理郎 小平 信彦

4. 秋季大会の期日変更について

会場の都合で期日は変更できない。プログラムで調整する(講演企画担当)

5. 天気入門講座の頒布価について

1部 150円とする。

新入会員 賛助会員全日本空輸株式会社および通常会員, 金崎 厚ほか36名の入会を承認する。